

2010 学術 WEEKS

プログラム



神戸大学大学院・人間発達環境学研究科
研究推進委員会 学術 WEEKS ワーキンググループ

学術 WEEKS 2010

11月 <http://www.h.kobe-u.ac.jp/aew> (Ver.20101115)

日	月	火	水	木	金	土
31	1	2	文化の日 3	4	5	6
7	8 ●学術 WEEKS 2010 開会式 ●ESD セミナー：持続可能な社会づくりと平和・社会的公正—葛藤を乗り越えるコミュニティづくりをめざして— (松岡+院生) Dr. Okano, Dr. Gomes (ラトルブ大学, オーストラリア)	9	10	11	12 ●免疫機能からみた現在の健康課題—運動とかせ (近藤+院生) 永富良一 (東北大学)	13
14	15	16	17 ●青少年の危険行動防止のためのライフスキル教育的アプローチ Part II (川畑+院生) Dr. O'Dea (Univ. of Sydney), 工藤ひとし (校長, 村上市立朝日中学校), 山下雅道 (指導主事, 姫路市教育委員会)	18	19	20
21	22 ●ヒトの体温調節特性—運動後の反応から— (近藤+院生) Dr. Kenny (Univ. of Ottawa, Canada) ●震災復興期における都市環境形成に関する研究会 (梅宮+院生) 初田香成 (東京大学大学院特任助教)	23 勤労感謝の日	24 ●西オーストラリア・シンガポール・日本との心理学分野での学術交流会 (研究科+心理学分野企画) ●からだの仕組みをみるには? 「体温調節機構を解明する新しい環境試験室の構築」. Dr. Kenny+企業 ●学術 WEEKS 2010 レセプション	25 ●西オーストラリア・シンガポール・日本との心理学分野での学術交流会	26 ●EU(ヨーロッパ連合)における「生涯学習のためのキー・コンピタンス」とは (今谷+院生) Dr. Deiss (欧州委員)	27 ●EU(ヨーロッパ連合)における「生涯学習のためのキー・コンピタンス」とは ●Every Child Matters: What does it mean? (研究科+伊藤篤+院生) Dr. Boddy (Thomas Coram Research Unit, IOE)
28 ● EU(ヨーロッパ連合)における「生涯学習のためのキー・コンピタンス」とは ●学術 WEEKS 2010 閉会式	29	30	1	2	3	4

Academic Exchange Weeks 2010

学術 WEEKS 2010

Graduate School of Human Development & Environment KOBE UNIVERSITY

目次 Contents

2010年11月8日(月)

ESD セミナー

「持続可能な社会づくりと平和・社会的公正

ー葛藤を乗り越えるコミュニティづくりをめざしてー」

2010年11月12日(金)

健康増進支援に関する講演会「免疫機能からみた健康課題 ー運動とかぜー」

2010年11月17日(水)

シンポジウム「青少年の危険行動防止のためのライフスキル教育的アプローチ」

2010年11月22日(月)

戦災復興期における都市環境形成に関する研究会

2010年11月22日(月)

からだの仕組みに関する講演会「ヒトの体温調節特性 ー運動後の反応からー」

2010年11月24日(水)

からだの仕組みをみるには？「体温調節機構を解明する新しい環境試験室の構築」

2010年11月24日(水)・25日(木)

講演会「多文化の中の心理学 (Trans-cultural Psychology)」

2010年11月26日(金)・27日(土)・28日(日)

第6回国際市民性教育推進ネットワーク・セミナー

「EU (ヨーロッパ連合) におけるヨーロッパ市民教育と生涯学習」

2010年11月27日(土)

ロンドン大学教育大学院 講演会

「Every Child Matters: What does it mean?

ーエブリ・チャイルド・マターズ (政策提言書) の意味するものー」

E S D セミナー参加募集!

和・社会的公正
和・社会的公正

持続可能な社会づくりと

平和・社会的公正

葛藤を乗り越えるコミュニティづくりをめざして

日時：11月8日（月）

13：20～16：40

会場：神戸大学発達科学部 A棟 2F 大会議室

講師：アルベルト ゴメス 氏

(Alberto Gerardo Gomes)
オーストラリア
ラトロープ大学 社会科学部 教授



岡野 かおり 氏

オーストラリア
ラトロープ大学 社会科学部 准教授

定員：先着 30 名

問い合わせ・申し込みは ヒューマン・コミュニティ創成研究センターまで

Email : esdkobe@koala.kobe-u.ac.jp ☎ : 078-803-7970

和・社会的公正
和・社会的公正

永富 良一

東北大学医工学研究科・教授



免疫機能からみた健康課題-運動とかぜ-

日時：2010年11月12日（月）13：00～15：00

場所：神戸大学・発達科学部・大会議室

講演内容

アスリートはカゼをひきやすくなるといわれている。オリンピック選手村診療所の受診者内訳では軽症の上気道炎症状および消化器系の症候が60%以上を占めるといわれている。また市民マラソン参加者の追跡調査によると、練習量が少ないランナーより練習量が多いランナーの方が上気道炎症状を呈するケースが多いことが知られている。なぜこのようなことが起こるのか？カゼをひきやすくなるメカニズムは一体どこまでわかっているのか？本講演では1)「免疫」のはららきだけではカゼの感受性を説明することが困難であること、2)アスリートのカゼは必ずしも感染症だけではない可能性があること、3)感染症としてのカゼの原因はほとんどがウイルスであるが、ウイルスの感受性には免疫系以外の要素も考慮する必要があることを紹介する。

略歴

1984年東北大学医学部卒業。1986年東北大学医学部第3内科医員。1988年東北大学教養部保健体育学科助手。1994年東北大学大学院医学系研究科運動学分野助手。2002年同教授。2008年東北大学大学院医工学研究科健康維持増進医工学研究分野教授。医学博士。日本体育協会公認スポーツドクター。国際運動免疫学会（前会長・理事）、日本体力医学会（理事）、日本臨床スポーツ医学会（評議員）、日本老年医学会（評議員）。

近藤徳彦（人間発達環境学研究科 kondo@kobe-u.ac.jp 内線 7816）

（本講演会は人間発達環境学研究科の学術 WEEKS2010 の一環として実施）

シンポジウムのご案内

青少年の危険行動防止のためのライフスキル教育的アプローチ

日時：2010年 11月 17日（水） 10：00～17：00

場所：神戸大学発達科学部大会議室

プログラム

10：00～11：00 川畑 徹朗（神戸大学大学院）

日本における青少年の危険行動防止とライフスキル教育

11：10～12：00 千須和 直美（大阪市立大学）

日本の青少年のためのボディイメーজ教育とは—質的調査研究の結果より

13：00～14：30 Jenny O'Dea（シドニー大学）

セルフエスティーム・メディアリテラシーアプローチを用いたボディイメージ教育

14：40～15：30 山下 雅道（姫路市教育委員会）

学校や地域資源を活用した青少年健全育成プロジェクト

15：40～16：40 工藤 ひとし（村上市立朝日中学校）

ライフスキル教育 新潟県朝日中学校での実践報告

16：40～17：00 総合ディスカッション

戦災復興期における 都市環境形成 に関する研究会

講演：戦後日本における都市再開発の形成と展開

初田香成 氏（東京大学大学院工学系研究科特任助教）

報告：『神戸新聞』にみるヤミ市の変遷 1945-1947 村上しほり
（神戸大学大学院人間発達環境学研究科博士前期課程）

趣旨説明＋進行：梅宮弘光（神戸大学大学院人間発達環境学研究科准教授）

日時：2010年11月22日（月）13時00分～（16時00分）

場所：神戸大学大学院人間発達環境学研究科 F棟5階 F553教室
（神戸市灘区鶴甲3-11 神戸市営バス36系統 神大発達科学部前）



問い合わせ：神戸大学大学院 梅宮研究室 umemiya@kobe-u.ac.jp 078-803-7806

Dr. Glen, Kenny

オタワ大学（カナダ）・教授



日時：2010年11月22日（月）

1) 研究紹介 16:00～17:00

近藤徳彦：熱放散特性研究の新たな展開

天野達郎（前期課程）：運動トレーニングの違いが熱放散反応に及ぼす影響

2) 講演会 17:00～19:00

Dr. Kenny: ヒトの体温調節特性-運動後の反応から-

場所：神戸大学・発達科学部・大会議室

講演内容

ある運動を終了すると運動後に血圧が運動前より低下する。これに伴い自律神経活動が大きくなり、運動後の発汗や皮膚血流がその影響を受ける。Kenny先生はその仕組みを検討している研究者であり、近年、からだにセンサーをつけないで身体からの熱の放散量を解析する方法を確立し、世界で注目されている。運動後の体温調節機構について、精力的な研究の一端を紹介いただく。

略歴

1987年オタワ大学健康科学部を卒業、1994年同大学でPhD（生理学）を取得後、同大学で教員に。専門は運動生理学・環境生理学で、科学雑誌に140以上の論文を発表。

近藤徳彦（人間発達環境学研究科 kondo@kobe-u.ac.jp 内線 7816）

（本講演会は人間発達環境学研究科の学術WEEKS2010の一環として実施）

からだの仕組みをみるには？



Dr. Glen, Kenny

オタワ大学（カナダ）・教授



体温調節機構を解明する新しい
環境試験室の構築

日時：2010年11月24日（水）14：00～16：00

場所：神戸大学・発達科学部・中会議室 A

講演内容

からだの仕組みをみるためには、測定法が重要になってくる。特に、体温の研究では多くのセンサーを身体に付ける必要があったが、Kenny先生は身体から出る熱量を環境試験室により直接計る方法を改良し、体温調節の研究に利用している。現在、これは世界で稼働しているものは唯一の直接型熱量計で、多くの研究者が利用している。今回、Kenny先生に、この試験室を概説していただくとともに、日本の企業の方との交流で、日本での改良型試験室の作成について検討する予定。

略歴

1987年オタワ大学健康科学部を卒業、1994年同大学でPhD（生理学）を取得後、同大学で教員に。専門は運動生理学・環境生理学で、科学雑誌に140以上の論文を発表。

近藤徳彦（人間発達環境学研究科 kondo@kobe-u.ac.jp 内線 7816）

（本講演会は人間発達環境学研究科の学術 WEEKS2010 の一環として実施）



学術 weeks 講演会



多文化の中の心理学

Trans-cultural Psychology



Dr. Mike Anderson

& Dr. Frank Baughman

西オーストラリア大学

子どもを理解するための多面的手法



日時：2010年11月24日(水) 10:00~12:00

場所：神戸大学発達科学部 大会議室 (A棟 2F)



略歴



Mike Anderson

西オーストラリア大学教授・認知神経科学的発達ユニット首席研究員。
主な研究テーマは、知能における個人差や発達的变化をもたらすメカニズムの把握、小学生相当の年齢の子どもにおける認知機能の成熟と知能の発達について、子どもの知能的・社会的・情緒的発達。

(2008年度神戸大学学術 weeks プロフィールより)



Frank Baughman

西オーストラリア大学助教・認知神経科学的発達ユニット研究員。
主な研究テーマは、行動科学的・コンピュータ科学的手法を用いた認知的多様性(cognitive variability)に影響を及ぼすメカニズムの理解。

(大学ホームページより)

森岡正芳 (人間発達環境学科) morioka@crystal.kobe-u.ac.jp 内線 7703



学術 weeks 講演会



多文化の中の心理学

Trans-cultural Psychology



Dr. Chang

南洋理工大学 (シンガポール) 准教授

アジア的文脈における

心理学的 Well-being



日時：2010年11月24日(水) 13:00~14:30

場所：神戸大学発達科学部 大会議室 (A棟 2F)

略歴

Weining. C. Chang. ナンヤン工科大学心理学部准教授。

主な研究テーマは、パーソナリティアセスメント、文化・養育と自己成長、個人・家族におけるレジリエンス、アジア的文脈における適応行動・非適応行動など。心理学的手法と文化人類学的手法を併用し、自己形成やその過程についての研究を行っている。

(大学ホームページより)



イラスト：ふわふわ。リ

森岡正芳 (人間発達環境学科)

morioka@crystal.kobe-u.ac.jp

内線 7703

本講演会は人間発達環境学研究科の学術 weeks2010 の一環として実施



学術 weeks 講演会



多文化の中の心理学

Trans-cultural Psychology



Dr. David Morrison

& Dr. Patrick Dunlop

西オーストラリア大学

決して来て欲しくない日に対する準備

—緊急森林火災への準備と対応のための

コミュニティ改善の3層的アプローチ



日時：2010年11月25日（木）9:30～11:30

場所：神戸大学発達科学部 大会議室（A棟2F）



略歴



David Morrison

西オーストラリア大学心理学部教授(学部長)。

主な研究テーマは、ストレス下における意思決定、ジョブデザインのありようが及ぼす身体的・心理的影響について、パーソナリティテスト・能力検査における測定法、職場復帰に向けたトレーニングの効果など。

(大学ホームページより)



Patrick Dunlop

西オーストラリア大学心理学部准教授。

主な研究テーマは、ストレス状況下における意志決定過程の把握、心理査定など。

(大学ホームページより)

森岡正芳（人間発達環境学科） morioka@crystal.kobe-u.ac.jp 内線 7703



学術 weeks 講演会



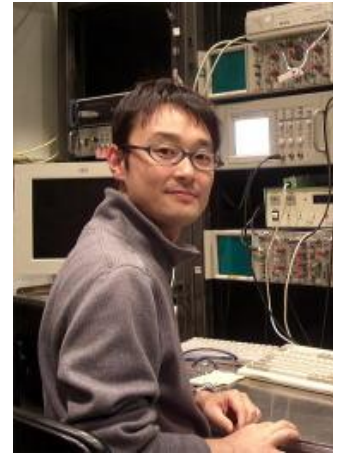
多文化の中の心理学

Trans-cultural Psychology



辻本 悟史 准教授

神戸大学大学院人間発達環境学研究科
心身発達専攻健康発達論コース准教授



認知機能およびその発達における

神経学的基盤

—単一ニューロンから行動へ—



日時：2010年11月25日（木）11:40～12:40

場所：神戸大学発達科学部 大会議室（A棟2F）



略歴

神戸大学大学院人間発達環境学研究科心身発達専攻健康発達論コース准教授・発達科学部人間行動学科准教授。認知神経科学、健康行動科学。「こころ」を脳内の物質現象として捉え、心理学と脳神経科学を組み合わせ、心身の健康の維持・増進および発達を追及しています」（2011年度大学案内パンフレットより）



イラスト：ふわふわ。り

森岡正芳（人間発達環境学科）

morioka@crystal.kobe-u.ac.jp

内線 7703

本講演会は人間発達環境学研究科の学術 weeks2010 の一環として実施



学術 weeks 講演会



多文化の中の心理学

Trans-cultural Psychology



大神田 麻子 特別研究員

神戸大学大学院人間発達環境学科



年少児と年長児の 反応バイアスのメカニズム



日時：2010年11月25日（木）14:00～15:00

場所：神戸大学発達科学部 大会議室（A棟2F）



森岡正芳（人間発達環境学科）

morioka@crystal.kobe-u.ac.jp

内線 7703

第6回

国際市民性教育推進ネットワーク・セミナー
(共催：日本グローバル教育学会「地方セミナー
in 神戸)

テーマ「EU(ヨーロッパ連合)におけるヨーロッパ市民教育と生涯学習」

日時：2010年11月26日(金)・27日(土)・28日(日)

場所：神戸大学大学院人間発達環境学研究科

11月26日(金)

9:30~12:00

開会の辞

今谷順重(神戸大学大学院人間発達環境学研究科)

講演1：Senior Lecturer Dr. Bryony Hoskins

(Institute of Education, University of London, UK)

Title:” Comparing Young People’s Civic Competence in Europe”

指定討論者：田中 泉(広島経済大学)

橋崎頼子(日本学術振興会特別研究員)

久野弘幸（愛知教育大学）

14:00~16:00

講演 2 : Dr. Lars Nerdrum

(Department for Policy Analysis,
Lifelong Learning and International Affairs,
Norwegian Ministry of Education, Norway)

Title: “Citizenship Education, Social Capital and Social Skills in Norway”

指定討論者：竹中伸夫（就実大学）

田中 泉（広島経済大学）

久野弘幸（愛知教育大学）

11 月 27 日（土）

9:30~12:00

講演 1 : Senior Lecturer Dr. Bryony Hoskins

(Institute of Education, University of London, UK)

Title: ”Learning Citizenship through Social Participation
Outside and Inside School : An European Multilevel Study of
Young People’s Learning of Citizenship”

指定討論者：加藤幸次（上智大学名誉教授：通訳を兼ねる）

鴛原 進（愛媛大学）

久野弘幸（愛知教育大学）

ワークショップ1 : Dr. Lars Nerdrum

(Department for Policy Analysis,
Lifelong Learning and International Affairs,
Norwegian Ministry of Education, Norway)

Title: "Education Policy and Recent School Reforms in Norway"

指定討論者：加藤幸次（上智大学名誉教授・通訳を兼ねる）

鴛原 進（愛媛大学）

久野弘幸（愛知教育大学）

14:00~16:00

講演2：橋崎頼子（日本学術振興会 特別研究員）

Title : "Teaching Unity and Diversity in Citizenship Education: On
the Case of Council of Europe's Teaching Materials "

指定討論者：加藤幸次（上智大学名誉教授・通訳を兼ねる）

鴛原 進（愛媛大学）

久野弘幸（愛知教育大学）

<フリー・トーク>

最後に、ゲストを囲んで、参加者全員でヨーロッパ市民教育についてフリー・トークを行います。(通訳あり)

11月28日(日)

終日、京都でフィールドワークを行います。

<対象>

どなたでも参加できます。日本語による通訳があります。

<参加方法>

事前の申し込みが必要です。メールでお申し込みください。

<お問い合わせ先・参加申し込み先>

神戸大学大学院人間発達環境学研究科 教育科学論コース

今谷順重研究室

メール：nimatani@kobe-u.ac.jp

電話：078-803-7775 (直通) (内線 7775)

学術 Weeks 2010 London 大学教育大学院

テーマ 「*Every Child Matters: What does it mean?*」 (通訳付)

エブリ・チャイルド・マターズ (政策提言書) の意味するもの

講師 : Dr. Janet Boddy (講師のプロフィールは裏面参照)

所属 : ロンドン大学 Institute of Education ・ Thomas Coram Research Unit 上級研究員

日時 : 2010年11月27日 (土) 14:00~16:00

場所 : 神戸大学大学院人間発達環境学研究科 A棟2階 大会議室

* 参加ご希望の方は、お名前・ご所属・連絡先を明記して、メールかFAXで担当者までお申し込みください*

申し込み先 : ヒューマンコミュニティ創成研究センター 寺村ゆかの

E-mail: yukano@sapphire.kobe-u.ac.jp FAX : 078-803-7971

講演内容：

2003年に公表された英国の政策提言書『Every Child Matters』がどのような意味をもたらしたか、一虐待対応において、諸機関の連携的取り組みやワーカーの育成、そして子どもと家庭への普遍的・介入的サービスなどを含む政策の変化—などをわかりやすく講演（通訳付き）していただく予定です。

講師略歴： 専門は児童心理学。1997年より **Institute of Education** に勤務。

子ども・若者とその家族に対するペアレンティングやその他の家庭支援サービスを専門的に研究。子どもと家庭を対象とした政策と施策に関する欧州全体にまたがる調査に関心がある。2000年以降は、トマス・コラン・リサーチ・ユニットの同僚とともに、「社会による教育（Social Pedagogy）」に関する調査を実施している。この調査には、養護されている子どもへの施策に関する欧州全体にまたがる研究、養護の「届きにくい」若者とその家族に対する支援に関する研究、英語を母語としない国々におけるペアレンティング支援に関する研究が含まれている。

Every Child Matters 様々な専門機関とのコンタクトがあったにもかかわらず、当時8歳であった **Victoria Climbié** が大叔母から長期にわたる虐待を受けて死亡した事件を重く受け止め、政府が2003年に公表した政策提言書。福祉システムの画期的な改善の手引きとなり、子ども法の改正（2004）につながった。

<院生・学生ボランティア・スタッフの参加者募集について>

ボランティア内容としては、当日、講演会の受付や進行のお手伝いをお願いしたいと思います。

また、講師の研究に関心がある、一度話をしてみたいなど講師と交流したいと思われる方は、担当（寺村）までご相談ください。もちろんセミナーに参加だけでも歓迎です。

問い合わせ先：ヒューマンコミュニティ創成研究センター 寺村ゆかの 迄

Tel：078-803-7978

E-mail：yukano@sapphire.kobe-u.ac